



スミスネズミ

**第53回テーマ：
スミスネズミ捕獲作戦**

講演内容

- ①小哺乳類・スミスネズミとは
- ②アカネズミの移動についての研究成果

③スミスネズミの由来

実施日：平成19年8月18日（土）
午後1時～3時30分
場 所：六甲山自然保護センター
レクチャールーム



講師：恩地 ^{おんち} ^{みのる} 実さん

プロフィール

1948年生まれ。大阪出身。甲南大学理学部生物学科卒業後、京都大学理学部動物学教室動物生態学研究室研修生を経て現職。

猛暑の中で整備活動

午前中の景観整備活動には13名が参加しました。猛暑で六甲山でも30度近く、みんなで汗をかきながら散策路入り口付近の整備をしました。去年刈ったササがまた繁茂しているの、もう一度ササを刈りました。去年ササを刈ったところからは、今までにはなかった植物も生えています。散策路に覆いかぶさって景観を暗くしていたツル植物も伐採しましたので、明るくて歩きやすい道になりました。



散策路脇のアキノタムラソウ

生きたスミスネズミと対面

午後からの市民セミナーは、甲南高校の恩地さんにお話をいただきました。恩地さんはセミナーの前日に、人と自然の博物館の鈴木さんと共に、夜通しでスミスネズミを捕獲する作戦をされました。ところが、数十箇所仕掛けた捕獲箱の大半をイノシシに壊されてしまったようで、残念ながらネズミは一匹も捕まえられませんでした。

別途に捕獲して用意されたスミスネズミとアカネズミを展示していただき、無事対面できました。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

スミスネズミは六甲山の珍種

スミスネズミは六甲山で新種登録されたネズミで、100年間存在が見つかっていなかったネズミですが去年発見されました。ネズミにはネズミ型とモグラ型の2種類があり、スミスネズミは運動能力の低いモグラ型だそうです。スミスネズミの生態はほとんど分かっておらず、六甲山のどこに住んでいるのかも分からないそうです。

小哺乳類の実態調査に参加しませんか

恩地さんは「スミスネズミ捕獲隊」への参加を呼びかけておられます。六甲山小学校の生徒の大石昂生君も有力メンバーで、自然保護センターの展示ルームに見事な昆虫標本や、スミスネズミの骨格標本を展示されています。生態の不明な小哺乳類を実態調査し、保護を進めるという試みを支援したいです。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 伴 芙美香 さん

初めての六甲山自然保護センターでした。午前中は、池の水質調査と生き物探しでした。モリアオガエルのオタマジャクシはたくさんいるし、網なしでヤゴも捕まえてとても楽しかったです。捕まえたヤゴを後で調べてみると、オオヤマトンボかコヤマトンボの可能性が高そうでした。昼からのネズミのセミナーでは、初めて野生のネズミを間近で観察できました。ネズミの話も聞いて、とても面白い1日でした。また参加したいと思います。



【助成金をいただいている機関】

コベルコ環境保全基金、セブン-イレブンみどりの基金
ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金



第53回テーマ：スミスネズミ捕獲作戦



第53回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00～13:10
2. 講演：13:10～14:40
3. 質疑応答：14:40～14:45
4. 休憩：14:45～15:00
5. 交流会：15:00～15:30

講演

- ①小哺乳類・スミスネズミとは
- ②アカネズミの移動についての研究成果
- ③スミスネズミの由来



スミスネズミに興味津々

講演の挨拶(恩地 実さん)

甲南高校の恩地です。昨日からスミスネズミ捕獲作戦で泥んこになってしまいました。今日はネズミの種類のお話をして、それから実際にネズミを見ていただいております。よろしくお願いします。



恩地さん

講演内容

1. 小哺乳類・スミスネズミとは

■小哺乳類とは

「小哺乳類」という定義があるわけではない。日本ではネズミやモグラを指す。アフリカなどではウサギなども小哺乳類と呼ぶ。ドブネズミやハツカネズミを家ネズミというが、これは人間との係わり合いだけで分類学的には関係ない。

■ネズミにはネズミ型とモグラ型がある

ネズミにはネズミ型の「ネズミ亜科」とモグラ型の「ハタネズミ亜科」がある。日本ではふつうネズミという場合、2つを区別しないが、英語ではそれぞれを「mouse」と「vole」に区別する。ネズミ型は尻尾が長く、70cmぐらいまでジャンプできる。巣は地下にあるがエサは地表でとる。モグラ型はほとんど土の中だけで暮らす。巣のトンネルから顔を出して、周りの草を食べて引っ込むぐらい。耳や目が小さく、尻尾も短いのが特徴。

■スミスネズミとは？



スミスネズミ

頭胴長約10cm、尾長約4cmのモグラ型のネズミといわれ、通常のネズミとくらべて尻尾は短く、耳は目立たない。中部以西の本州、四国、九州の豊かな森の林床や岩場などに生息する。ハタネズミによく似ており、頭骨の構造でのみ識別が可能。主に植物を食べるようだ。

■スミスネズミ捕獲は失敗

昨日から泊りがけで、六甲山のスミスネズミ捕獲作戦をした。ネズミは薄明薄暮型なので、夕方までに罠をセットして明け方に見に行く。昨日も50個ぐらい罠をかけたが、8割方がイノシシに壊されてしまった。アカネズミは必ず捕まえられると思っていたが、何も捕まえられなかった。

捕獲用の罠はいろいろあるが、私は生態を専門にしているので生け捕り用の罠を使っている。折りたたみ式でコンパクトなのが特徴。罠の中に生のピーナツを入れておく。ネズミが罠に入って仕掛けを踏むと、扉がしまっただけで出られなくなる。

■ネズミの処理の仕方

捕まえたネズミは、動かないようにビニール袋に入れて、体重を量り、色々な部分の長さを測る。更に繁殖状態をチェックし、個体識別のための印を付けて捕獲地点に離す。ネズミを捕まえるのには県の許可がいる。



体重測定で「袋のネズミ」

■野ネズミにとっての河川敷

野ネズミにとって、都市近郊に残された唯一の棲息場所。かつては河川敷に冠水するのが普通だった。冠水すると植生が破壊されて草原が出現する。ハタネズミは草食で、ジャンプ力も登攀力もない。夏に草が数10cmの高さになるとエサが食べられない。洪水で高い草が倒れて新芽が出ると、そこに集まってきて大発生する。

淀川の場合、河川改修により数年に一度の冠水になった。乾燥化して河川敷が高い草で覆われると棲息することができなくなる。

2. アカネズミの移動についての研究成果



アカネズミ

■棲息場所の分断

ネズミ型のアカネズミの棲息には最低1ヘクタールが必要といわれている。小哺乳類は鳥や昆虫のように空中分散ができないので、川の支流や公園・道路などの人工物によって棲息場所が分断される。

分断がネズミの移動にどのように問題になっているのか、愛知県豊田市の矢作川で調査した。3年間の調査で、河川敷に支流が流入している所は移動の障害になることが明らかになった。支流に倒木などがあれば日常の移動も可能なことがわかった。神戸市の西区で、道路が移動の障害になるのかも調査した。1日に車が数台しか通らない幅2.5mの未舗装の道路だったが、17頭捕まえたうち、2頭しか渡っていなかった。

■アカネズミの移動

アカネズミは50㎡が行動圏。夕方に巣穴から出てきて1日で50m移動する。1週間に1度ほど「サリー」という遠出で500mぐらい移動する。移動先が良い環境ならそこに定住する。良くなかったり、先住者がいると、また戻ってくる。

ネズミはある程度土地勘がある。昔、捕まえたネズミに逃げられたとき、捕まえた場所に戻ると逃げたネズミが先に帰っていたことがあった。

3. スミスネズミの由来



鈴木さん

スミスネズミの由来について、人と自然の博物館の鈴木さんにお話いただきました。

■スミスネズミはなぜ「スミス」？

スミスネズミの名前はイギリス人のリチャード・ゴードン・スミスが六甲山で捕まえたことに由来する。

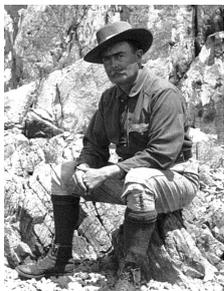
1858年に資産家の3代目として生まれたスミスは、世界一周旅行の途中で、日本を気に入って居ついた。遊んで暮らしながら、日本の魚や小型哺乳類をとって、標本を大英博物館に送っていた。

1904年に六甲山で新種のネズミを捕まえた。これがスミスネズミで、新種の基準となる六甲山の標本がイギリスに保存されている。

■100年ぶりにみつかったスミスネズミ

その後、六甲山ではスミスネズミの存在が確認されていなかった。六甲山上で飼われているネコのたつまき君が捕まえてきて100年ぶりに存在が確認された。たつまき君の行動範囲に片っ端から罠を仕掛けて、スミスネズミを捕まえることができた。

しかし、スミスネズミが六甲山のどこにいるのかさっぱり分からない。食べ物や巣の大きさ、どんな生活、一生を過ごしているのかなども、さっぱり分かっていない。



ゴードン・スミス

質疑応答

ネズミの寿命は？：春に生まれるネズミは秋に繁殖して次の春には死ぬ。2年は生きない。ところが飼育すると5年は生きる。

スミスネズミのエサは？：ネズミによってエサの好みは全然違う。スミスは肉も食べる。イチゴやビワを食べるので果実が好きなようだ。今はハムスターフードを食べている。

まとめ（恩地さん）

野ネズミは、キツネやタヌキ、テンなどの中型哺乳類やワシやヘビなどのエサになります。植物の種子散布にも重要な役割を果たしていることが分かってきました。野ネズミの棲息地が分断されるとは、個体群が絶滅する恐れがあります。ハタネズミに近いスミスネズミは運動能力が低く、六甲山上の道路を渡れないと思います。分断されているところにスミスネズミがいるかどうか調べて、絶滅させないための方策を考えないといけないと思います。

参加の感想 赤保 正文 さん

ひさしぶりに『六甲山魅力再発見市民セミナー』に参加させていただきました。もう53回にもなるんだなあと思いつつ席に着きました。

恩地先生の話は分かりやすく面白く、鈴木先生の映像を使ったスミスの説明も良かったです。昨年10月、両先生と香川大学金子先生を迎えて、一泊二日の捕獲調査に参加させていただいたときのことを思い出しながら聞き入っていました。もっと多くの若い人たちに聞いて欲しかったと思います。



事務局より

ネズミは害獣というイメージがありましたが、生態系で重要な位置を占めることが分かりました。

六甲山を代表する動物、スミスネズミが生きられる山にしていきたいと思いました。

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ・スライド
- ・スミスネズミ・アカネズミ
- ・カワネズミ・スミスネズミの標本
- ・『ゴードン・スミスの日本仰天日記』、『ゴードン・スミスの見た明治の日本』、『まちねずみジョニーのお話』など

恩地 実

甲南中高等学校 教諭
 〒659-0096 芦屋市山手町 31-3
 TEL : 0797-31-0551 FAX:0797-31-7458
 MAIL : onchi@konan.ed.jp

◆参加者の声～アンケートより～

- ・スミスネズミの姿に感激しました。
- ・恩地さんの熱意に感服です。
- ・一日の活動のまとめの時間が有意義だと思った。
- ・六甲山のスミスネズミの生息地を探しても面白いかも。

◆参加者：26名（50音順・敬称略）

恩地 実 鈴木 武 青木 孝子 赤保 正文
 浅井 審一 石田 澄子 石丸 京子 泉 美江子
 大石 昂生 岡谷 恒雄 桑田 結 小坂 忠之
 斎藤能斗也 斎藤ゆうこ 堂馬 英二 堂馬 佑太
 中村 公一 野口 裕美 伴 英美香 福原 昌代
 藤井宏一郎 村上 定広 八木 浄 米村 邦稔